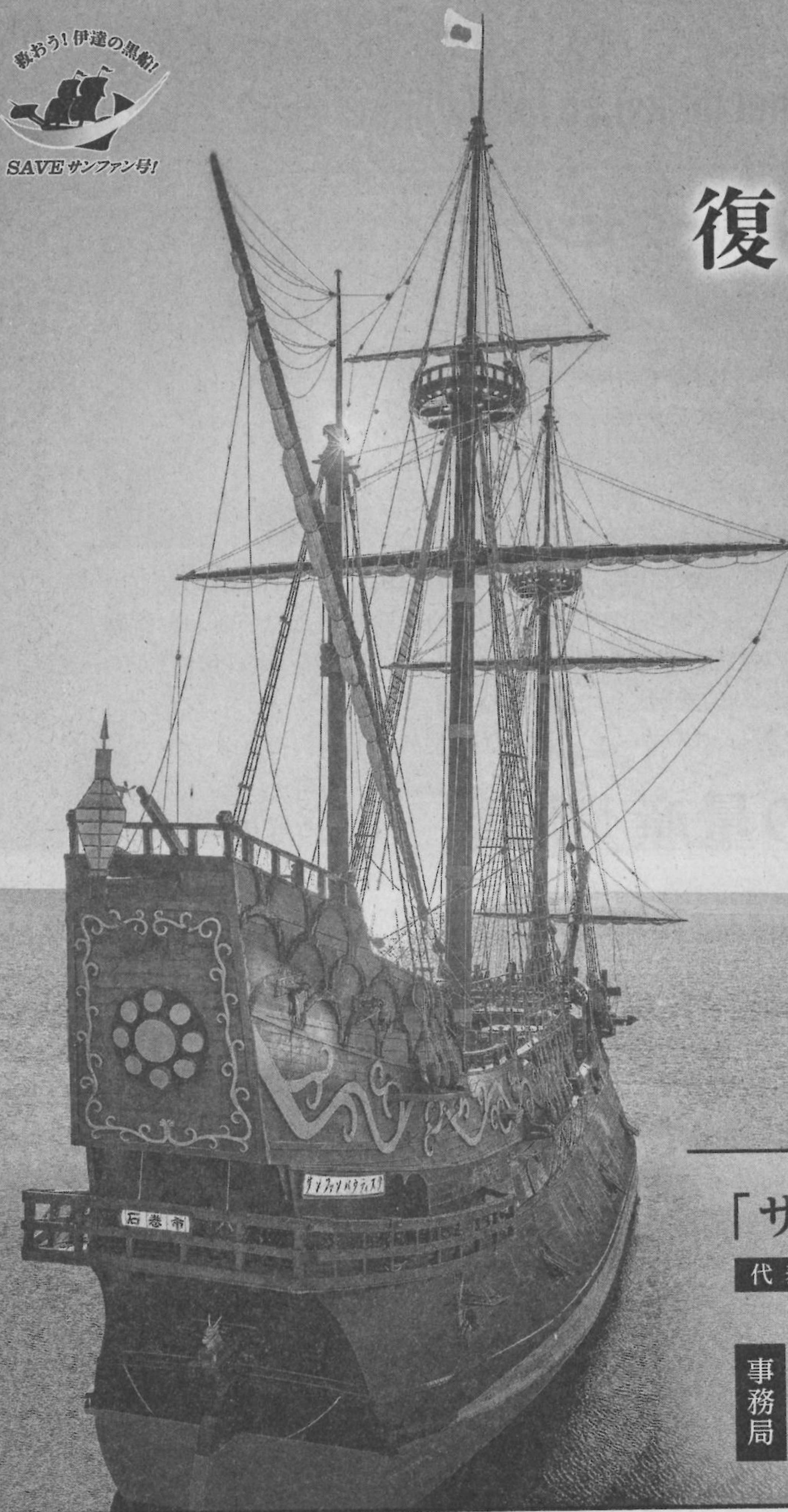




SAVE サンファン号!



私たちは宮城県の宝

意見広告

復元船サン・ファン・パウティスタ号 解体に反対します!!

初代仙台藩主、伊達政宗公が407年前に支倉常長を公使としてスペイン・ローマに派遣した慶長遣欧使節。私たち宮城県民が誇りに思う歴史的な偉業は、今も、そして未来でも郷土の子どもたちへ伝えていくべきことです。

常長ら使節一行を乗せて大海原を渡った“伊達の黒船”サン・ファン・パウティスタ号。その復元船が数百年の時を超え、私たちの目の前に甦ったのが1993年でした。この一大事業には17億円もの県民の血税や寄付金などが使われ、当時の一線級の船大工が携わりました。もはや再現不可能といわれた技術の粋を贅沢に集めた船体は、あの東日本大震災の地震と大津波にも耐えました。10年が経とうとしている今も、仙台・石巻港の入り口で、この美しい姿を見せてくれています。

サンファン号は、その歴史的偉業を今に伝えるだけでなく、復興に向かう県民に勇気を与える存在にもなっています。さらには慶長使節に関係する世界中の人たちと、宮城県をつなぐシンボルにもなっています。

その“かけがえのない宝”を宮城県は老朽化を理由に、再び十何億円もの大金をかけて来年度中に解体するとしています。そして、その後には1/4サイズの繊維強化プラスチック(FRP)製の模型船に置き換えると決定しました。

私たちは、この県の決定に疑問を抱いています。新型コロナウイルス感染症により、未曾有の経済危機にある今、何故そんな大金をかけて解体・1/4模型船建造を急ぐ必要があるのでしょうか？

保存を熱望する県民と、スペイン、イタリア、メキシコなどの人たちの気持ちを無視し、解体することは時期尚早ではないでしょうか。

今、改めて声を上げた理由は、取り返しがつかないことだからです。

私たちは、「サンファン号保存を求める世界ネットワーク」(略称:サンファン号世界ネット)を組織し、新たに署名活動を展開し、解体反対の運動の輪を広げていきたいと思っています。

また、解体執行差し止めの法的措置も視野に入れこの歴史的建造物の保存運動を皆さんと一緒に進めて行こうと思います。

どうぞ皆様のお力をお貸しください!

サン・ファン・パウティスタ号の
原寸大復元船の
解体の中止を求めたい!
ご賛同者を募っています



「サンファン号保存を求める世界ネットワーク」

代表 白田 正樹 (ハボン・ハセクラ後援会会長) 副代表 齋藤 祐司 (サン・ファン・パウティスタ号を保存する会会長)

〒986-0822 宮城県石巻市中央2丁目10-2 新田屋ビル1階 IRORI 内
電話番号: ☎080-4884-4868
mail: save.sanjuan2021@gmail.com



[賛同者リスト]
ハボン・ハセクラ後援会(仙台)/サン・ファン・パウティスタ号を保存する会(石巻)/劇団「夢回帰船」出航プロジェクト(石巻)/スペイン・ハボン・ハセクラ協会(スペイン)/コリア・デル・リオ市(スペイン)/日西観光協会(マドリード、スペイン)/米ニューヨーク宮城県人会(ニューヨーク、アメリカ)/日本クラブ男声合唱団(ニューヨーク、アメリカ)/NPO 9.11 風の環メモリアル・コンサート(アメリカ)/混声合唱団「とも」(ニューヨーク、アメリカ)/その他、国内外の多数の個人・法人



SAVE サン・ファン世界ネットアンバサダー
とことろ
都甲 マリ子
脚本家・演出家/宮床伊達家末裔

一緒にサンファンについて考えよう
YouTube
「都甲マリ子の
サンファン・チャンネル」開設!! ▶



www.japon-hasekura.com

サン・ファン解体中止を

市民団体ネットワーク結成

県慶長使節船ミュージアム（石巻市）にある復元船「サン・ファン・バウティスタ号」について、老朽化



サン・ファン号の解体中止を求める活動について説明する白田会長（中央）ら

で解体する県の方針に反対する県内外10の市民団体などが26日、連携組織「サン・ファン号保存を求め世
界ネットワーク」を結成した。3月まで署名を集めて県に提出するほか、解体工事差し止めの仮処分を仙台地裁に申し立てる考えだ。

ネットワークの設立は各団体の活動を集約し、新年度に迫る解体を食い止めるのが狙い。石巻市のサン・ファン・バウティスタ号を保存する会、仙台市のハポン・ハセクラ後援会に加え、

慶長遣欧使節団が立ち寄ったスペインのコリア・デル・リオ市も名を連ねる。

ネットワークの会長に就いた白田正樹ハポン・ハセクラ後援会長らが県庁で記者会見。「（県の方針に）失望し、怒りを感じている。復元船は日本の宝物。文化遺産として、壊さずに残してほしい」と訴えた。

復元船は1993年完成の木造船。東日本大震災の津波に耐えたが、船底を中心に老朽化が進み、県は2017年度に修復を断念した。計画では解体後の24年度、4分の1の大きさで繊維強化プラスチック（FRP）製の後継船を造る。

プを
ベア
2目
式決
全
50
うち
円。
10
賃全
正に
集
が参
新型
拡大
ら仙
され
営業
また
がる
い状

石巻日日新聞

石巻日日新聞社
〒986-0874
石巻市双葉町8番17号
電話 0225-95-5231
ファックス 0225-94-4720
郵便振替口座 02240-3-4424

©石巻日日新聞社 2021

Hibi-net
https://www.hibishinbun.com

「サン・ファン号」を救え

解体中止求め 国内外10団体が連携 1万人署名へ

老朽化により、4月以降の解体が決まっている県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)Ⅱ石巻市渡波Ⅱの復元船サン・ファン・ハウティスタ号を巡り、国内外の10団体が保存を求めるネットワークを結成した。復元船の公開が終了する3月末までに1万人を目標にした署名を集めて県に提出するほか、解体停止の法的手続きも準備。約400年前の使節団の偉業を伝える復元船を地域発展のための文化遺産、東日本大震災の地震、津波に耐えた復興のシンボルに位置付け、保存運動が世界的なうねりとなるよう多くの賛同を得ていく考えだ。

法的手続きも視野

発足したのは「サン・ファン号保存を求める心とし、スペインのハポン・ハセクラ協会やAVFサンファン世界ネット)。仙台市のハポン・ハセクラ後援会(白田正樹会長)、石巻市のサン・ファン・ハウティスタ号を保存する会(斎藤祐司副会長)、劇団「夢回帰船」

17億円をかけて建造された。当初は50年持つとされたが、震災の影響もあって必要強度が不足し、県は現在の木造船のままの修復、保存を断念。維持費用面から後継船は4分の1サイズの繊維強化プラスチック(FRP)製とし、令和6年度の公開を目標に展示整備す



会見した白田会長(中央右)や斎藤副会長(中央左)ら

る。同ネットは後継船の計画にも疑問を持っており、白田会長は「失望し、怒りをもって受け止めている。さまざまに団体は反対してきたが、一つに集めて世界規模のネットワークにしよ」ということになった」と説明。「意見を聞く場を設け、住民と一緒に納得した形で進めてほしい。保存も最大限努力したのか、改めて検討してほしい」と訴えた。



班ごとに分かれ販売接客を体験する生徒たち

県立石巻支援学校(三浦由美校長)の高等部生徒86人が手掛けた作業製品の販売会が22、26、27日に同校体育館で開かれた。感染対策で3日間に日程を分け、来場者も保護者や近隣住民に限定するなど規模を縮小。それ

接客学び働く喜び体感

石巻支援学校高等部 分散開催で製品販売

でも生徒たちは丹精を込めて作った手工芸品や野菜などの魅力を伝えながら、販売活動に汗を流した。販売会は作業学習での製作品を売り、働く喜びを味わいながら接客マナーを身に付けることなどが目的。例年

給食に鯨の

女川小中学校 町の鯨

女川町は25日、女川小学校(早川知宏校長)と女川中学校(伊藤拓巳校長)の学校給食に、鯨肉を使用したおかずを提供した。子どもたちはかつて町の水産業振興を支えた鯨食文化を学んだ上で、鯨の竜田揚げをおいしそうに頬張っていた。

同町には昭和25年に日本水産の捕鯨事業所が設立され、商業捕鯨が盛んだった同30年代には年間2000頭を水揚げ。一般家庭に広まり、鯨食文化が栄えた。しかし

安全・安心のプレゼンター

同和警備

石巻市中里三丁目6の12 ☎(95)90003
ネット/仙台・塩釜・古川・名取・気仙沼・栗原

県東部 28日の天気

| | | | |
|--------|---------|----------|---------------------|
| 北の風 | 後 | 東の風 | 海上では北の風 |
| やや強く | 曇り | 明け方まで晴れ | 所により夜遅く雪か雨。波 2メートル。 |
| 朝の最低 | -2℃ | 日中の最高 | 5℃ |
| 降水確率 | 0-6時 0% | 06-12 0% | 12-18 10% |
| | | | 18-24 20% |
| 仙台 | | | |
| 29(金) | 30(土) | 31(日) | |
| 曇一時雪か雨 | 曇時々晴 | 曇時々晴 | |
| -1/6 | -3/2 | -2/5 | |

仙台管区気象台 27日午前11時発表

資料として生かしていく方針だ。

調査は石巻、石巻好文館、石巻工、石巻商、石巻北、

サン・ファン解体に反対

市民団体など連携組織を結成

石巻市の県慶長使節船ミュージウムにある復元船サン・ファン・バウティスタ号について、県の解体方針

に反対する県内10の市民団体などが26日、連携組織「サン・ファン号保存を求め世界ネットワーク」を結成

した。3月までに署名を集めて県に提出し、解体工事差し止めの仮処分を仙台地

宮城水産、石巻市桜坂の7高校と石巻専修大の各3年生1591人を対象に昨年6月22日～10月3日実施

し、1366人から回答を得た(回収率85・9%)。高校生の進学希望は60・9%、就職希望は38・1%。



サン・ファン号の解体中止を求める活動を説明する白田会長(中央)ら

胃腸科・一般内科・漢方科

高橋消化器内科

TEL0225-95-1621

〈診療時間〉
月曜日～土曜日…午前8時30分～12時
午後2時～午後5時
※水・土曜は午後休診 ※日・祝日は休診

石巻市千石町 2-5 (石巻グランドホテル隣/P有)

裁に申し立てる方針。ネットワークには石巻市のサン・ファン・バウティスタ号を保存する会、仙台

市のハポン・ハセクラ後援会といった県内の団体に加え、慶長遣欧使節団が立ち寄ったスペインのコリア・デル・リオ市も名を連ねる。各団体の活動を集約し、新年度に迫る解体を食い止めるのが狙い。

ネットワークの会長に就いた白田正樹ハポン・ハセクラ後援会長らが県庁で記者会見し「復元船は日本の宝物だ。(県の方針に)失望し、怒りを感じている。文化遺産として壊さずに残してほしい」と訴えた。

復元船は1993年完成の木造船。東日本大震災の津波に耐えたが、船底を中心に老朽化が進み、県は2017年度に修復を断念した。計画では解体後の24年度、4分の1の大きさで繊維強化プラスチック(FRP)製の後継船を造る。

あすの潮汐

29日(金) = 大潮

| | | | |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 満潮(高) | 5:13 (21) | 干潮(低) | 10:01 (-15) |
| | 5:24 (39) | | 22:41 (-113) |
| 日出 | 6:42 | 日入 | 16:53 |